

次号予告

特集 一次法の逆襲

近接分離アルゴリズムとその応用—信号処理・画像処理的観点から—.....小野峻佑（東京工業大学）
凸最適化問題に対する一次法とその理論—加速勾配法とその周辺—.....伊藤 勝（日本大学）
一次法としてみた座標降下法，乗数法，交互方向乗数法.....山下信雄（京都大学）
無制約最適化問題に対する勾配法について.....成島康史（慶應義塾大学）
DCアプローチに基づくスパース最適化...後藤順哉（中央大学），武田朗子（東京大学，理化学研究所）
機械学習問題における確率的最適化技法
.....鈴木大慈・二反田篤史（東京大学，理化学研究所），村田智也（(株)NTTデータ数理システム）

メーリングリストに登録しよう

会員の方は、本学会のメーリングリストに登録すると、学会ならびに各研究部会の主催する研究発表会・セミナー等の催し物に関する最新情報が得られます。登録方法については、<http://www.orsoj.or.jp/members/mlhowto.html>をご覧ください。

編集後記

●毎年5月号の特集は関西支部が担当しています。今回は2018年11月17日に開催した関西支部シンポジウム「ビッグデータ研究とは何か」でご講演いただいた内容をもとにして記事を執筆いただいています。シンポジウムには例年より多くの参加者がありました。ビッグデータという言葉は必ずしも新しくはないですが、未だに興味を引くキーワードになっているのは確かなようです。非会員の方の参加や関西以外の遠路からの参加も目立ちました。
●ビッグデータに関わる研究や取組みはOR学会では活発に行われていますが、むしろあらゆる分野で行われていると言ってもよいでしょう。OR学会に関わって

いる者からすれば、OR学会は中心的な存在だと思います。でも、非会員の参加者からは「OR学会もこういうテーマを扱っているんですね」と言われました。入会を勧めておきましたが、まだまだ外向きの情報発信は足りないようです。
●しかし、このことは必ずしも悪いことではなく、ORに軸足を置いたわれわれがさまざまな分野に乗り込んで行って、OR手法を普及していると考えられることもできます。ORとは分野普遍的に通用する技術ですから、とは言っても、それではいつまでも主流にはならないかもというジレンマもありますが。

（森田 浩）

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 猿渡 康文（筑波大学）
関西支部編集委員長 森田 浩（大阪大学）
オーガナイザ 宇野 裕之（大阪府立大学）
関西支部編集委員 大西 匡光（大阪大学），中西 真悟（大阪工業大学），藤江 哲也（兵庫県立大学），山川 茂孝（株式会社電通），山口 勇太郎（大阪大学）

本誌に掲載された記事についての著作権は、公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

令和元年5月号 第64巻 第5号 通巻701号

代表者 齊藤 裕

発行所 公益社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都千代田区岩本町1-13-5 サン・チカビル7F

電話 03-3851-6100 FAX 03-3851-6055 〒101-0032

<http://www.osrj.or.jp/>

編集人 猿渡 康文

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-15-5 〒151-0051

- ・本誌購読のお申込みは、日本オペレーションズ・リサーチ学会へ。
- ・本誌への広告のお申込みは、明報社（Tel 03-3546-1337）へ。